

小学校第5学年 外国語活動指導案

日 時 平成25年6月18日(火)
指導者 教育センター所員 JTE 松尾 美値余
ALT ヴィクトル

1 単元名 Happy&Smile!(Hi, friends!1 Lesson 4 「好きなものを伝えよう」との関連)

2 単元設定の理由

- 好きなものというテーマは、互いについて伝え合うときによく取り上げられる。児童にとっても身近で親しみやすく、自分の思いを比較的容易にもつことができる話題である。本単元では、その好きなものをテーマとして取り上げ、「好きなものに囲まれると幸せな気持ちになるね(Happy)、笑顔が増えるね(Smile)」というコンセプトを、単元全体を貫くものとして位置付けている。そして、みんなが求める幸せな気持ちや笑顔が学級にたくさんあふれるような関わりをしたいね、という温かい思いをもって単元を締めくくることができるように活動を展開する構成となっている。

児童は、色や生き物、食べ物、そして、自分のとっておきの好きなものなどについて聞いたり伝えたりする中で、言語や非言語を使って相手とのコミュニケーションを楽しむことができるであろう。また、表現する楽しさだけでなく、好きなものを伝え合うことをきっかけに、自分の回りの様々な人について新しい発見をしたり、自文化との異同に気付いたりすることができるであろう。

単元を通して様々な形態のコミュニケーション活動を行い、児童は、相手と関わることや相手を知ることのよさ、自分を知ってもらふことの喜び、関わりができたことに対する自信や満足感を感じるなど、外国語活動ならではのコミュニケーションの様々な楽しさを見いだしていく。それが、積極的に相手に向き合おうとする意欲や態度を培っていくことにつながると考える。

- 本学級の児童は、今年度から週1時間の外国語活動を経験してきている。これまでに「世界のあいさつ」「ジェスチャー」「数」などをテーマにした単元を通して、英語を聞いて何となく内容が分かる体験、言語・非言語を用いて人と関わる体験を徐々に楽しむことができるようになってきた。また、人と関わる上で大事にしたいことについても、“Good communicatorになろう”というめあての下、実際の関わりの中からそれらを少しずつ見いだしているところである。本単元でも、活動を通して友達やJTE、ALTとの関わりの楽しさを体験させ、コミュニケーションへの意欲を高めていきたい。そして、言葉だけでなく、身振りや表情、声の調子などにも注意を向けて相手の伝えようとするを何とか聞こうとする・自分の伝えたいことを自分にできる方法で何とか伝えようとする児童の姿、つまり、相手に心に向けて関わろうとする姿が得られるようにしていきたい。
- 指導に当たっては、様々な活動を通して、友達や先生たちのことが分かってよかった、自分のことを分かってもらってうれしかった、というお互いを表現することで感じられる受け容れ合う心地よさを体験させたい。そこで、次のようなことに留意する。

まず、どの児童も安心して相手との関わりを楽しみ、自分の思いを表現できるようにすることである。そのために、単元に設定する活動は、それぞれの性質やねらいをよく考え、初めに、聞いて反応する活動や楽しみながら外国語を自然と口にする活動を十分に行い、「何となく分かった、伝わった」という自信や満足感を高めて、次第に自分の言いたいことを表現する活動へとスモールステップで進めていくようにする。その際、児童が本当に言いたいことを表現できるように、扱う語彙などは事前の調査に基づいて選択し設定していくようにする。また、単に英語でやりとりできればよいという関わりではなく、自らの聞きたい・伝えたいという思いに支えられて相手に向き合う関わりができるように、相手への興味・関心を喚起するような内容を活動に盛り込んでいくようにする。

次に、身近な異文化である友達やJTE、ALTのことをたくさん聞いて新しい発見をし、他者への気付きをもったり、それらを理解しようとする気持ちをもったりできるようにすることである。そのために、各時間で扱う内容(色、生き物、食べ物など)について考える際には、自文化と異なる部分ばかりでなく、似ているところや同じところなど「異文化の中にある同質性」や、それぞれのよいところにも目を向けることができるようにしていく。そうすることで、より広い視野をもって関わる相手を受け容れていこうとする心理的な素地をつくっていききたい。

さらに、単元全体の活動を通して目指すのは、児童が相手意識をもって互いに気持ちのよいコミュニケーションができるようになることである。そのために、人と関わる上で大事にしたいのはどんなことなのかを、児童が自然と気付いていけるようなALTとのやりとりを提示したり、形成的評価としての活動中の言葉掛けを工夫したり、明確な視点をもった振り返りの場で考えを共有させたりしたりしていくようにする。

本単元では、ALTとのTTで活動を展開する時間を設定している。JTE、ALTそれぞれのも

つ特性を生かすことができるように役割を意識しながら進めていくとともに、JTEとALTが言語非言語によるやりとりを楽しむ様子を見せ、その姿から児童にコミュニケーションの楽しさを伝えていくことを心がけたい。

3 単元目標

- 好きなものについて伝え合うことを通して、人それぞれにいろいろな思いや考えがあることに気付くとともに、好きなものを答えたり尋ねたりする表現に慣れ親しみ、友達やJTE, ALTとのコミュニケーションを積極的に楽しもうとする。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
相手の好きなものを聞いたり自分の好きなものを伝えたりしながら、友達やJTE, ALTと積極的に関わろうとしている。	好きなものを表す表現や好きなものを尋ねる表現に慣れ親しみ、それらを用いながら活動している。	人それぞれに様々な思いや考えがあることに気付いたり、自文化と異文化の似ているところや異なるところに気付いたりしている。

5 単元計画（全5時間）

時	活動名・目標	主な活動	評価			
			コ	慣	気	
1	Happy colorは何色？ ・ 自分と回りの人との似ているところや違うところを知り、人それぞれに様々な感じ方があることに気付く。(JTE)	<ul style="list-style-type: none"> 色を表す表現に触れる。 集中力ゲームをする。 Let's Listen 1 Let's Chant 1・2 友達のHappy colorを知り、人それぞれの感じ方に気付く。 			○	自分と友達との思いや考えの異同を知り、新しい気付きをもったり、それらを受け容れようとしていたりしている。
2	みんなをHappyにする生き物 ・好きなものを表す表現や好きなものを尋ねる表現に慣れ親しむ。 I like ~. Do you like~? Yes. / No. (JTE)	<ul style="list-style-type: none"> JTE, ALTの好きな生き物の話を聞く。 キーワードゲームをする。 Let's Chant 1・2 好きな生き物についてのやりとりビンゴをする。 Happy animalについて知る。 			○	好きなものを表す表現や好きなものを尋ねる表現を用いたり、それらと非言語を併せて用いたりしながら活動している。
3	みんなをHappyにする食べ物は(Part 1)？ ・好きなものを表す表現や好きなものを尋ねる表現に慣れ親しむ。 I like ~. Do you like~? Yes. / No. (JTE)	<ul style="list-style-type: none"> JTEの好きな食べ物の話を聞く。 児童の好きな食べ物を表す英語表現を知る。 Let's Listen 2 好きな食べ物についてペアでインスピレーションゲームをする。 			○	好きなものを表す表現や好きなものを尋ねる表現を用いたり、それらと非言語を併せて用いたりしながら活動している。
4 本 時	みんなをHappyにする食べ物は(Part 2)？ ・好きな食べ物について伝え合うことを通して、友達やJTE, ALTとのコミュニケーションを楽しむ。(JTE, ALT)	<ul style="list-style-type: none"> ALTの好きな日本の食べ物についてのクイズを行い、食べ物でつながる自文化と異文化について知る。 友達インタビューを行い、好きな食べ物について尋ねたり答えたりする。 			○	好きな食べ物について尋ねたり答えたりするなど、友達やJTE, ALTとの関わりを進んでもとうとしている。
5	みんなのHappy&Smile ・とっておきの好きなものについて進んで自分のことを伝えたり、友達のことを聞いたりしてコミュニケーションを楽しむ。(JTE)	<ul style="list-style-type: none"> チームワークChant 自分のとっておきの好きなもの(こと)を伝え合う。 Who am I?クイズをする。 「みんなを」Happy&Smileにするものは何かを考える。 ~I like it. からWe like it. ~ 			○	インタビューやクイズを通して、進んで自分のことを伝えたり、友達のことを聞いたりしている。また、活動を通してコミュニケーションを図るときに大切にしたいことについての気付きをもっている。

6 本時の活動（4／5）

(1) 本時のねらい

- 好きな食べ物について尋ねたり答えたりするなど、友達やJTE, ALTとの関わりを進んでもとうとしている。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 本時の展開

児童の主な活動	JTEの主な働き掛け 評価 (◎)	ALTの主な働き掛け
<p>1 チャンツを楽しんで表現に触れたり、前時の振り返りの紹介を聞いたりして、本時の活動への意欲をもつ。</p> <p>2 「ヴィクトル先生をHappyにする日本の食べ物は？」クイズをする。</p> <p>①日本由来の食べ物についてのクイズをする。</p> <p>②クイズの答えになる食べ物をALTが好きかどうかを予想する。</p> <p>③ALTと児童全員でやりとりをして好き嫌いを確かめる。 Do you like ~? I like ~.</p> <p>3 「友達インタビュー」をする。 相手の好みを予想して「いちばん好きな食べ物(Best1)」をインタビューする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の気付きを紹介してよさをほめるなど、温かい気持ちで活動が始められるようにする。 児童の関心を高めるために、ヒントの出し方を工夫したクイズを取り入れる。 ALTの英語を非言語で補い、児童の理解を助ける。 児童の発言を丁寧に拾い、やりとりをしながら活動を進める。 児童と一緒に声を出してALTに質問するなど、どの児童も安心して活動に取り組むことができるようにする。 ALTが好きな日本の食べ物の話題で、日本の食文化が外国の人にも幸せな気持ちにしていることに触れる。 友達のことを知りたいという気持ちが高まる言葉掛けをする。 ※友達についての発見を教えてね！ ※好きな食べ物が自分と同じ友達がいるかも！ ※最初は相手のことを予想して聞いてみよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気を始められるように、児童に積極的に声を掛ける。 児童が内容を理解できるように、表情豊かにジェスチャーも交えながらヒントを与える。 児童のつぶやきをリキャスト(英語で返す)をしたり、簡単なやりとりをしたりして、児童の関わりへの意欲を高める。 どの児童も活動を楽しむことができるように、ゆっくりと英語の音声を聞かせる。 自国と日本の食べ物のつながりについて話す。 JTEとのデモンストレーションで、丁寧な関わりモデルとなるようにする。 ※表情、あいさつ、お礼、話す速さ、など 児童と一緒に活動しコミュニケーション体験を多くさせる。
<p>※デモンストレーションで示すこと</p> <p><u>1 Good communicatorになるために</u></p> <p>①向き合って・ゆっくり・ていねいに ②笑顔でHello! 最後にThank you. ③相手が分かりやすいように ヒントを求める・ヒントを出す (ジェスチャー、色、どのお店、…)</p> <p><u>2 友達の新しい発見をするために</u></p> <p>①相手のことを考えて、予想して ②理由を聞いてもよい</p>	<p>◎ 好きな食べ物について尋ねたり答えたりするなど、友達やJTE, ALTとの関わりを進んでもとうとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ＜行動観察・VTR・発言・振り返りカードの点検＞ △進んで関わりをもつことができない →関わりに消極的な児童のペアリングをしたり、ヒントを一緒に考えたり、相手と向き合って話ができたとほめたりして、関わりへの自信を高めるようにする。</p>	
<p>4 本時の活動を振り返る。</p> <p>5 「だいすきなもの」(絵本)の話聞く。 次時の活動につながる内容の話を映像を見ながら聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達やJTE, ALTとの関わりでのよさをほめたり、活動を通して気付いたことを発表し合わせたりすることで、コミュニケーションへの自信や意欲をもたせる。 ALTの音声に合わせて言語や非言語で補足をする。 次時の活動へ意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主にコミュニケーションの面でのよさを、簡単な英語や身振り、表情などでたくさんほめる。 児童の様子をよく観察し、簡単な言葉に置き換えたり速さを調節したりして読み進める。